

# 五所川原第一高等学校 令和2年度進路指導部だより

第6号 令和3年1月12日発行 文責:進路指導主事 柏崎健太郎

## 心に余裕をもって万全の態勢で受験に臨むべし

数年に一度といわれる寒波が襲来するなど、荒天が続く中、3学期がスタートしました。正味2か月半しかない3学期で実行できることは限られています。1・2年生は、模擬試験や学年末考査などを目標の1つに掲げ、メリハリのある行動を心掛けてください。3年生は、就職、進学に向けて新たなステージへ進む準備をしましょう。一方で、これから受験を控えている皆さんは、健康管理もさることながら、メンタル面の管理を徹底しましょう。不安感や焦燥感に駆られた状態では、脳を効率よく動かすことができず、普段の実力の半分も出せないといわれています。受験に向けた計画を丁寧に立てることで、心にゆとりを持たせ、着実に自信を積んでいくことを考えましょう。今後のスケジュールをイメージできるだけでも私たちは不安を解消することができますから、より目に見える形で具体化することから始めてみてください。



## 大学入学共通テストの日程は

本校全日制課程の生徒は27名が受験する予定です。

1月16日(土)	
地理歴史 公民	2科目受験 9:30~11:40 1科目受験 10:40~11:40
国語	13:00~14:20
英語	リーディング 15:10~16:30 リスニング 17:10~18:10

1月17日(日)	
理科① ※基礎科目	9:30~10:30
数学①	11:20~12:30
数学②	13:50~14:50
理科② ※専門科目	2科目受験 15:40~17:50 1科目受験 16:50~17:50

日程は事前に把握し、余裕をもって行動できるように心掛けましょう!!



## 3年進路決定状況（進学編）

	令和2年度3学年		※昨年度実績
国公立大学	8名	6.3%	9名
私立大学	32名	25.0%	39名
国公立短期大学	17名	13.3%	9名
専修・各種学校	53名	41.4%	71名
職能施設・専攻科	2名	1.6%	7名
就職進学	0名	0.0%	5名
未決定者	16名	12.5%	0名
合計	128名	100.0%	140名

（令和2年12月31日付進路指導部調べ）

○県外国立大学への合格者が出た今年度は、国公立大学合格が昨年並の情勢

今年度の国公立大学合格者数は、12月末現在で8名となった。昨年度12月末現在では6名だったため、ほぼ昨年並の合格者数とみて差し支えない。また、弘前大学、青森公立大学、青森県立保健大学と県内国公立大学3校への合格は例年と変わらなかったものの、今年度は、岩手大学、北海道教育大学と県外国立大学への合格が出た点が特筆できる。今週末には、「大学入学共通テスト」も控えているので、これから受験を控えている皆さんには、今まで学習した内容を丁寧に復習し、国公立大学への受験に備えてもらいたい。

○私立大学は昨年並の合格者数だが、県外志望者が多いことが特徴

一方、私立大学の合格者数は昨年度39名に対し、今年度32名となり、この点は昨年同様であった。ただし、県内私立大学への進学が昨年の30名から19名へ減少したことに対して、県外私立大学への進学が昨年の9名から13名へ増加した点が特筆できる。今後、一般選抜試験が控えているため、県外私立大学への進学者数は増加が見込まれる。県外私立大学への進学が増加した背景には、本校生徒の学びたい分野がこの4～5年で拡大したことが推測される。今年度の生徒の進学先の学科は、都市マネジメント、社会福祉、栄養科学、イベントプロデュース、メディア表現、英文学、武道教育、グローバル経営など、多岐にわたっていた点が特徴的である。この傾向は、1学期に実施した第1回進路希望調査でも読み取れ、大学・短大の希望分野では、農学系統以外のすべての分野に希望者がいた。県内大学だけでは網羅しきれない分野を、県外大学に求めているのではなからうか。



## ○短期大学・専門学校は昨年度の傾向と逆転する

短期大学合格者数は、昨年度から倍増して 17 名となり、専門学校合格者数は、昨年度から 25%減の 53 名となった。特に、大学・短大をひとまとめにした区分で見ると、今年度も昨年度もともに 57 名となり、今後の一般選抜試験を考えれば、昨年度を上回ることが推測される。この背景として、今年度は、保育系統、調理系統を志望する生徒が昨年よりも多かった点が指摘でき、これらの生徒が県内私立短期大学を志望したものと分析することができる。

一方で、専門学校への進学では、医療・看護系統を志望する生徒が例年同様多かった点が特筆できるが、志望学科の種類については例年と大きく変わっていなかった。ただし、県内専門学校希望者が昨年の 32 名から 21 名へと数を減らしており、この減少した分が短期大学志望者に移ったものと考えられる。

さらに、公共職業能力開発施設への志望者は、昨年の 7 名から 2 名へと減少した。これは、前号での進路決定状況（就職編）と合わせて考えてみれば、就職を希望する生徒そのものが減少したことが背景にあるものと推測される。また、今年度は就職進学を希望する生徒は 0 名であった。

※ちなみに、公共職業能力開発施設とは…

公共職業能力開発施設とは、職業能力開発促進法に規定されている施設で、国、都道府県、市町村が職業訓練を行うために設置する施設のこと。職業能力開発校、職業能力開発大学校、職業能力開発短期大学校、職業能力開発促進センター、障害者職業能力開発校の 5 種類がある。五所川原市飯詰にある青森職業能力開発短期大学校はこの 1 つにあたる。

職業能力開発校は、普通職業訓練で長期間及び短期間の訓練課程のものを行うための施設で、青森県では、青森県立弘前高等技術専門校、青森県立八戸工科学院などがある。

## 《 さいごに 》

令和 2 年 12 月 31 日現在で、就職内定者が 37 名（20.6%）、進学合格者が 112 名（62.2%）、進路未決定者が 31 名（17.2%）という情勢でした。

就職では、冬休みながら求人票閲覧、履歴書作成、就職書類送付、就職試験受験など、進路未決定の生徒は懸命に行動していました。12 月最終週に 1 名、1 月第 2 週で 3 名の生徒が受験しました。今は、この成果が実ることを祈るばかりです。

また、進学では、1 月中旬から本格的に一般選抜試験に向けた動きが活発化します。大学・短大・専門学校問わず、出願時期、出願書類の作成、受験料納付など細かな動きを担当、保護者の方々と必ず確認をしましょう。遠方に赴く生徒もいますから、マスク着用や手指消毒など、新型コロナウイルス感染症の予防にも目を向けるようにしてください。